

## 名古屋大学における研究教育の国際戦略

文責：名古屋大学 國枝秀世

### 国際戦略の検討

2014年 Super Global University Program 申請 → 「NU MIRAI 2020」に継承  
「21世紀、Sustainable な世界を構築するアジアのハブ大学」  
国際戦略の必要性・背景：少子高齢化。躍進するアジア。相対的地盤沈下  
国際競争力を持つための「4つの戦略」

### 戦略1. 世界 Top Level を目指す先端的研究強化 = 国際的研究拠点の形成

最先端から若手・女性支援まで4つのレイヤーで強化

- ・WPI 拠点 ITbM：トランスフォーマティブ生命分子研究所：名大の Flag Ship 拠点  
名大教員 PI 7名＋外国人 PI 5名。部局へ代替准教授手当。

米国 NSF 傘下の化学の強い大学ネットワークと相互派遣

Nature 級論文量産。若手の活躍（就職）。英語で運営会議。

- ・WPI-next(4 グループ)：外国人特任准教授、特任助教。5年間支援
- ・若手新分野ユニット6件：3年間特任 PD の雇用経費支援 --> Venture 設立
- ・YLC:学位取得者に研究環境5年間付与。倍率10倍で毎年7-10名採用

海外研修1年義務化。女性枠3名。外国人枠3名。5年以内に就職（承継）

頭脳循環プログラムの戦略的申請：3000万円3年間。若手1年間派遣。名大で10件以上

### 戦略2. 海外 Top 大学と Joint Degree Program = 国際的ネットワークの強化

- ・両大学合同委員会で入学、学位審査実施。
- ・1年間相手大学で研修（相手校の指導教官と合同指導）
- ・共通カリキュラム → 国際専攻の設置を文科省の設置審議会へ申請

JD に至る必要条件

- ・Top 大学の専攻と複数の共同研究の実績
- ・研究者間の信頼感（研究レベルの認知）
- ・大学院生・若手交換プログラムの実績

設置計画と実施状況（括弧内 QS ランキング）名古屋大学(QS115位、上海72位)

- 1) アデレード（豪125）医学 2015.10 4名在学
- 2) エディンバラ（英19）理学 2016.10 1名在学
- 3) ルンド（瑞73）医 2017.04 設置承認
- 4) カセサート（タイ47）農学 2018.04 申請準備中

可能性のある分野・大学との活動戦略的支援（Workshop 開催、派遣、招聘）

フライブルク大(163,THE96)、North Carolina 大(78)、ストラスブール大(260)

JD の効果

- ・国際共同研究の促進による研究レベルの向上
- ・学生交換で名古屋大学の教育研究レベルが海外で認知される
- ・博士学位が国際的に質保障される
- ・大学の国際的な認知度、Reputation が高まる

### 戦略3. 世界を牽引する人材育成

日本人学生海外派遣促進：マインドセット（意識改革）

- ・英語教育強化
- ・海外派遣プログラム(NUOTI) 単位取得型で 600 名-->1000 名まで
- ・留学積立金（1 万円／月）留学時点で 48 万円まで貸付 50-60 名／年参加
- ・名大基金から派遣補助金(10 万円／人)
- ・リーディング大学院 6 プログラム：海外研修多数実施

留学生受入拡大 国際的通用性向上。世界から学生を惹きつける。

- ・2000 人を 3000 人へ。中国・韓国が 2/3 だが減少傾向。海外活動で他地域で拡大。
- ・英語による授業の拡大。コースのナンバリング化促進。
- ・G-30 拡充：学部 6 コース、大学院 8 コース。50 名／年（志願倍率 3-->8 倍）  
留学生数が学部定員の内数のため定員厳格化（+5%枠）の中で停滞  
外国人教員 30 名以上雇用。AO 入試（Skype 面接）ノウハウ蓄積。  
奨学金（基金など）を合格時に約束（流失防止）
- ・短期型 Summer School、中期型 NUPACE プロを活用して拡大
- ・母国の中枢人材。日本のアカデミア・企業へ定着が課題

### 戦略4. アジアにおける拠点展開 = 成長著しいアジア等の途上国との関係構築

目的：アジア諸国の国家中枢人材育成

（部長級以上 160 人：ベトナム法務大臣、大学長数名）

アジアにおける日本のプレゼンスの向上に大きく寄与。

優秀な留学生獲得

日本人学生・研究者のフィールド：フライブルク大アジア研究所と連携

躍進するアジアの Top 大学と連携：

キャンパス・アジア、アセアンプログラム、ジョイントディグリー

実績：20 年以上の圧倒的な蓄積

日本法教育研究センター、YLP（医療行政官）、同窓会海外支部のネットワーク

アジアサテライトキャンパス学院：4 分野（法、農、医、国際開発）、7 ヶ国

現地で教育（教員派遣、TV）+名大でスクーリング。在籍のまま博士号。

計画：共同研究の実績の上で Joint Degree を目指す（カセサート、成均館ほか）

社会科学系中心の総合的戦略的展開

### 戦略5. 学内組織+海外事務所、そのほかの施策

<組織>国際機構、サテライトキャンパス学院、国際共同教育プログラム本部

リーディング大学院機構、高等研究院、未来社会創造機構

NU Tech. (North Carolina) オフィス。フライブルグ名大オフィス。

同窓会海外支部（14 ヶ国）。日本法教育研究センター（5 ヶ国）。

<施策>大学から国際会議支援（100 万円 X14 件）

海外先端研究者招聘（2-3 ヶ月 x 4-5 名の教授／年）

名古屋大学基金から留学生受入と派遣の支援に 5000 万円支出

バンコク病院ネットワークと協定。東南アジアにおける医療安全対策。

### <大学院後期課程の強化拡充>

- ◆後期大学院生は研究推進のエンジンであり、知識社会の牽引者である
- ◆アカデミア、産業界で世界と戦う人材を輩出する
- ◆研究の魅力を高め、後期課程学生数を増やす
  - 研究所に大学院生直接参加（研究の魅力を知ってもらう）
  - 全国から後期学生を集める。社会人入学を増やす。
  - 留学生を増やす（日本のアカデミア、企業に定着させる）
  - 5（4）年制コース。2年目以降は授業料を半免
  - 社会人コース（在籍可）の開設検討
  - 企業人と大学院教育（含前期課程）を共創する
- ◆産業界との教員の人事交流（クロアポ等）を推進
- ◆経済面の不安解消：後期院生 RA 雇用（制限撤廃）

### 今後の名古屋大学の方針とお願い

- ◎世界 Top 大学との強い連携（アジアを含む）で研究力向上
- ◎Joint Degree を 10-20 ユニットまで拡大
  - <-1 ユニット毎の新専攻設置の規則の改定を！
- ◎博士後期課程を強化
  - 世界の知識社会のエンジンとなる博士人材を輩出
  - <-博士後期課程への経済的支援（博士人材は日本社会の宝）
- ◎学生、若手の海外派遣促進（ネットワーク形成に必須）
  - <-派遣経費支援を：JD 特定支援、頭脳循環等交換プロの拡充
- ◎留学生受入拡大 ← 留学生を学部入学定員の外数に出す
- ◎強みであるアジア展開を維持拡大
  - <-国家的視点からも支援を
- ◎基金等外部資金により海外派遣・受入事業を拡充
  - ← 寄付金税額控除拡大を